

B型肝炎ワクチン (対象年齢：生後0月から生後1歳に至るまで) (標準：生後2月に至った時から生後9月に至るまで)

B型肝炎ワクチンは、小児の場合は肝炎の予防というより持続肝炎を防ぎ、将来発生するかもしれない慢性肝炎・肝硬変・肝がんの発生を防ぐことが最大の目的です。なお、肝炎ウイルス（HBs抗原）陽性の母親から生まれた赤ちゃんに対する接種は健康保険の対応となります。

病気の説明

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスは、出産時の母子感染、性的接触、ウイルスに感染した血液の輸血など、主に血液や体液を通じて感染します。また、頻度は低いものの、家族間や集団生活の場（保育所など）で唾液や汗を通じて感染することがあるともいわれています。

B型肝炎ウイルスの感染を受けると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性の肝炎となる場合もあります。一部劇症肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓も中に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんになることがあります。年齢が小さいほど、急性肝炎の症状は軽いかあるいは症状はあまりはっきりしない一方、持続感染の形をとりやすいことが知られています。

接種時期と回数

27日以上の間隔をおいて2回接種した後、第1回目の注射から139日以上の間隔を置いて1回接種します。（1回目接種から3回目接種は20週以上間隔をあけます。）

接種年齢及び回数は、生後0月から生後1歳までに3回ですが、標準的接種期間は生後2月に至った時から生後9月に至るまでに3回接種します。



※標準接種間隔：27日以上の間隔

※母子感染予防のために抗HBs人免疫グロブリンと併用してB型肝炎ワクチンの接種を受けておられる方は、この制度の対象ではありません（健康保険適応）ので、健康課までお問い合わせください。（健康課 TEL：0795-88-5750）

副反応と注意点

副反応は、倦怠感や局所の痛みで、乳児についても問題なく一般的には重篤なものは認められません。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。